

春日部福音自由教会 2020年12月13日 11:00 同時配信オンライン合同礼拝
聖書 新約聖書 ルカ 1章46節～56節
説教 「主はあわれみを忘れない」 小野信一牧師

I はじめに

おはようございます。クリスマス祝会を行うはずであった日曜日です。そして合同礼拝、本来であればこの場所に皆で集まって礼拝をささげ、そして午後には大人から子供までみんなで食事をして、ともに顔を合わせて交わりを持つ、そういう予定の日でありました。新型コロナウイルスの感染の影響で、残念ながら今日は祝会を行うことができません。また集まって合同礼拝をささげることができません。しようとしていたことを、一部でも別な形でできないだろうかということを考えて、今礼拝は、オンラインで三つの会堂に集まって一緒に礼拝をささげています。また祝会はありませんし一緒に食べることはできませんけれども、各家庭にお菓子を持って帰っていただいて、その交わりの時の代わりとしていただきたいと願っております。また会堂に来られていない方には、可能な限り感染に気を付けながらお訪ねして、お渡しいただければ、少しでも顔を見る交わりができるのではないかと考えております。

今日は三つの会堂に集まっています。ちょっとこの本題に入る前に少しお話ししたいと思いますが、ここに今カメラがありますけど写ってますかね。

丘の上会堂の皆さん、写ってますでしょうか。見えて聞こえてますでしょうか。今年はいっみんなでひとつの場所に集まったの合同礼拝ができません。そしてもう、新型コロナウイルスで始まった1年がもう終わろうとしています。5月には丘の上で、丘の上のメンバーと武里みぎわ会のメンバーの結婚式がありました。でも現場で出席できたのはわずかでした。しかし結婚の祝福が与えられたことを感謝したいと思います。今年には丘の上のガラスモザイクも完成しました。納骨堂に降りていく階段のところに、先日新しく設置された水色のガラスで描かれた景色は、私たちの思いを高いところに向けさせてくれる、希望を与えてくれるように思いました。今年丘の上の礼拝堂の前の道に沿ってイルミネーションが取り付けられました。イルミネーションの光が、また会堂の十字架の光が人々の心に届くように、また何より会堂に集まる一人一人が光となって、街の人たちの心を福音の光で照らすことができるようにと、丘の上の方たちのことも覚えてお祈りしています。

庄和会堂に集まっている皆さん。今大人の皆さんが集まっているのでしょうか。いつも礼拝は9時ですが合同になると11時に時間を変更していただくことになるので、その変化変更を受け入れていただいています。いつも11時のリトルシープに来ているみんなも今日は一緒に集まっているのでしょうか。本来は小学生のLSCですけども、庄和のLSCは年齢も幅が広くて元気に活動しています。今年はドラムやギターにマイクが増えたりオーディオミキサーが増えたりして、賛美の練習も、土曜日にもよく行っていましたね。昨日もその終わったところでしたけれども、様子を見せてもらいました。

また LSC の YouTube 同時配信は今も続けられていますし、賛美練習の同時配信も時々見せてもらいました。今日は逆ですけれども、そちらからこちらの様子が見えていますでしょうか。庄和 LSC の中の二人が今年洗礼を受けたいと希望をされました。しかし洗礼式が延期になったという事などもあって、残念ながら今年は受けることができませんでした。中央で洗礼を受けたのは他の 2 名ですね。オンラインで学びを続けられた方たちは受けられたんですけれども。そういうことがありました。庄和のメンバーにとっては一番良い時に信仰告白と洗礼に導かれることを祈っています。

家で礼拝している皆さんもいらっしゃると思います。よく聞こえているでしょうか。どうでしょうか。YouTube で礼拝の同時配信をするようになるとは、去年のクリスマス祝会の頃にはですね、全然考えていませんでした。

II 一年を振り返ると

今年になって感染がだんだん拡大してきて、身近に迫ってきた 3 月の最後の日曜に、3 人の執事に三つのことを分担して準備してもらうようお願いをしました。

そのうちの一つが礼拝堂に来られなくても同時に礼拝できるように、礼拝の同時中継・同時配信をどうしたらできるか考えてほしいということでした。すぐ次の週にはテスト配信を行って、その次が復活祭、そしてその次の 4 月 19 日から同時配信礼拝のみという形にしました。苦渋の決断でしたし、何が正しいのかわからないという中での難しい決断でもありました。配信も毎週できましたけれども、音声がかえづらい時とか途中で切れてしまった時とかいろんなことがありましたが、続けてきて、改善を重ねてきてくれました。配信の奉仕者に感謝しています。

お願いの二つ目はですね、教会のメンバー全員にどんな方法で連絡ができるかという連絡方法の確認でした。メールや LINE、電話などの方法の確認をしました。その後結果としては集まらないで礼拝する四つの方法を準備することになりました。一つは YouTube。二つ目は 音声配信 ですね。これも前からありましたけれど、今も続けてくれていますね。三つ目は CD。礼拝の音声を CD にしてお渡しする、あるいは郵送する、届ける、ということがありました。四つ目は 読む説教 です。これは自発的に始められたものでしたけれども、礼拝説教を文字にして印刷し配布する、郵送配達するという、それを毎週してくれている人たちがいます。

お願いの三つ目は中央のメンバーを三つのグループに分けてお互いの状況を把握しやすくできないか、ということでした。これはまだ実行はしていないんですけれども、今後、中央の礼拝堂に来られる人と来られない人が、今だんだん分かれてきているところがあるので、うまくグループ分けを活用して、できるだけ多くの方が、毎週ではなくても何週間に一回でも礼拝堂に来られるようにできないか、というふうに考えています。

今年を振り返ると、いろいろなことがありました。入院された方、手術を受けた方もいらっしやいました。闘病し、そういう中で天に召された姉妹もありました。今も入院中の方がいます。そして入院すると面会ができない、家族でも会えないということが多くありました。そういうケースのひとつです、やっと家族が会えるようになったということを知りて喜んでおります。その方はいつもは、今名前は出しますが、いつもクリスマス祝会では歌を歌ったりしてくれた兄弟です。喉の手術をして声帯も取ることになったとのことで、8月に入院をし、一か月後には退院してその時は筆談になりますと伺いましたが、その入院が延びてもう4ヶ月になろうとしています。どうぞお互いのことを覚えてですね、祈り合う者でありたいと思います。

皆さんこういう状況の中で、この一年振り返ってみてどうだったでしょうか。今それぞれの皆さんのからだと心はどんな状態でしょうか。元気でしょうか、疲れているでしょうか。いろいろな思いや心配があったのではないかと思います。

私もですね、なんだかやっぱり疲れが取れないところがあります。昨日は、朝めぐみ幼稚園のクリスマス会がありまして、少人数で行いました。その後週報のチェックなどをして PDF にするっていう作業をして、一旦帰ろうと思ったけれども帰る時間が結局なくて、そのまま丘の上に行って、夕方庄和会堂に戻りました。夕方帰ったら6時半頃だったんですけど、なんかその後の記憶がなくてですね、そのままちょっと横になったら寝てたようでした。朝2時でした。それで週報をホームページで見られるように毎週アップロードするってことをしてるんですけど、それを今朝思い出して、今朝したというような次第でした。

皆さんもからだと心を大切に気をつけながら休みながら過ごしていただきたいと思ひます。ちょっと体調を崩したり風邪を引いたり熱を出したりすると、結構心配が増えてしまいますので、なるべくそうならないようにお互い気をつけて過ごしたいと思ひます。

Ⅲ 主のあわれみ—真実の愛

さて今日のみことばはマリアの讃歌です。ルカの福音書1章46節から56節までを朗読していただきました。

マリアは「わがたましいは主をあがめる。私のたましいは、私の霊は喜んで神様をたたえます」とうたいました。マリアの心と霊とたましいは神様を賛美していたんですね。私たちの心、私たちのたましいはどうでしょうか。どんな状態でしょうか。神様に心を向けるとともに、私たちは自分の心の声を聴いたり、自分の心の様子を見たり、自分のたましいの声も聴く者でありたいと思ひます。

今日のこのみことば、46節から56節までを朗読していただきましたが、長い1行1行大切なことが歌われている讃歌でありますけれども、特に“今週のみことば”にあげました54節のところに「あわれみ」ということばがあります。「主はあわれみを忘

れずに」と書いてある、そのみことばを中心に、神様の思いに私たちの心に向けて参りたいと思います。

マリアは神の変わらない愛をうたっています。50節と54節に「あわれみ」ということばが出てきています。少女であったであろうマリアがその「主のあわれみ」をうたっている。少女の歌としては驚きだなというふうにも思われます。新しい新改訳2017の脚注のところに、50節の「あわれみ」に*印がついていて、“あるいは「真実の愛」54節も同様”とあります。55節にも「あわれみ」と出てきますが、50節と54, 55節の「あわれみ」という言葉は“真実の愛”と訳しても良いことばであるというふうに書いてあります。

主は「あわれみ」をお忘れにならないんだ、忘れないというのは直訳的に言えば覚えておられる、ということです。主の真実の愛を、また主が約束された永遠の愛を、主ご自身が覚えておられるということです。この「あわれみ」ということばは、元は旧約聖書のことばで、真実の愛とか永遠の愛、変わらない真実を指すことば、あるいは恵みとか慈しみというふうに訳されることばです。

今日交読で選んだエレミヤ書の31章3節のところにちょっともう一度見てみたいと思います。31章の3節。31章は終わりのところで新しい契約のことが約束される章ですが、その初めのところ。3節「主は遠くから私に現れた。『永遠の愛をもって、わたしはあなたを愛した。それゆえ、わたしはあなたに真実の愛を尽くし続けた』」。ここに「永遠の愛をもって愛した」と神様ご自身が言っておられます。最後の行に「真実の愛を尽くし続けた」と書いてあります。この前の新改訳聖書は「誠実を尽くし続けた」でした。「誠実」でした。この「誠実」とか「真実の愛」と訳されていることばが、新約聖書の先ほど「あわれみ」と訳されていたことばです。旧約聖書のヘブライ語でヘセドということばですけど、真実の愛ということばで、深い深い大切な意味のあることばで、いろんな聖書の箇所に出てきます。そしていろんなふうに訳されていることが分かります。この31章3節は、前は“誠実”でしたが今は“真実の愛”という訳語に代わって、新約聖書では「あわれみ」あるいは脚注で“真実の愛”というふうに、同じように「真実の愛」という言葉が見えるようになっています。

あるいは一つの例ですが、詩篇の136篇、皆さんどんな詩篇を思い出されるでしょうか。

「その恵みはとこしえまで、主の恵みはとこしえまで」と1行1行、多分これは、コールアンドレスポンス(Call and response)、誰かが前半を読んで会衆が後半を歌った、ということだろうと思います。「主の恵みはとこしえまで」。司会者あるいはリードする人が、一行歌う毎に、例えば2節、「神の神であられる方に感謝せよ」と言うと、会衆がみんな「主の恵みはとこしえまで」と歌い、また「主の主であられる方に感謝せよ」と言うと、「主の恵みはとこしえまで」と歌い、そういうふうにはリードする人や聖歌隊がいたかもしれませんが、会衆がみんな歌ったかもしれませんが、

そうやって繰り返し繰り返し歌われた主の恵み、それがヘセドです。真実の愛です。ここでは「主の恵み」と訳されています。恵みと訳されたり慈しみと訳されたりします。

IV 主はあわれみを忘れない—世代から世代へ

steadfast love っていう言葉があります。変わらない愛、信頼に足る愛、信頼に足る神様の真実、ということです。神様は「あわれみ」を約束されました。誠実を尽くす、真実の愛をあなたに尽くす、と約束されました。マリアは、その「あわれみ」、その真実の愛を神様はお忘れにならないんだ、お忘れにならなかった、ということをうたって賛美したのです。主が約束された真実の愛を、主ご自身が覚えておられる。それで時が来て、マリアを母として御子を世に送り、人間の子としてこの地上に生まれさせてくださった、それが主イエスキリストの降誕・受肉です。イエス様の誕生です。造り主なる全能の無限の神が、有限の小さな人間になられた。無力な赤子として寝かせられている。そのイエス様の小さくなられた姿を思い出しましょう。この小さくなられた神を私たちも身を低くして礼拝しましょう。“キリエ・エレイソン”ということばがありますが、「主よ、あわれんでください」ということばですね。それが、新約聖書で訳された「あわれみ」ということばです。

ルカの18章の終わりで、盲目の人が「私をあわれんでください」と叫びます。ダビデの子に向かって叫びます。“キリエ・エレイソン”。主よあわれんでください。「私をあわれんでください」というのは、私をかわいそうだと思って施しをくださいという意味でもあるでしょう。もちろん盲目の人は、このような私をご覧ください、助けてください、私のことをかわいそうだと思って「あわれみを」と言ったと思います。そのようないわゆる憐憫というような「あわれみ」という意味もあるでしょうけれども、先ほどの旧約聖書から新約聖書につながっている“真実の愛”「あわれみ」ということを考えたときに、この“キリエ・エレイソン”「私をあわれんでください」は、あなたのご真実を思い出してください、というニュアンスもあると思います。

「神様私たちをご覧ください」、「弱っている、恐れている、また目が見えなくて苦しんでいる私たちをご覧ください」、「あなたのご真実を思い出してください」。そのように言えると思います。

マリアは50節と54節で主の「あわれみ」は世々にわたる、主は「あわれみ」を忘れない、主はご自分の真実の愛を覚えておられる、と賛美しました。世々にわたって、世代から世代へと人間の歩みが続いていきます。55節ではアブラハムとその子孫に対する「あわれみ」を、語られた通りにいつまでも主は忘れなかった、ということを賛美しています。世代から世代へと人間の歩みはこの地球上で続いています。

ときが流れます。その中で神は覚えておられるのです。ときが流れていく、世代が変わっていく、人間は忘れてしまうということがあつた。でも神様は覚えておられます。神様は忘れないのです。ご自分の永遠の愛を、真実の愛、限りない「あわれみ」を神は忘

れておられない。そして今もなお神は覚えておられる。マリアはそのことを賛美しました。

私たちもそのことを賛美したいと思います。アダムから始まってノアがいた、アブラハムがいた、そしてダビデの時代から御子が誕生する時まで、そのことをマリアはうたいました。さらにマリアは、48節で「今から後どの時代の人々も」、というふうに言っています。アブラハムからイエス様の時代までの世代世代があったように、その先にも「今から後のどの世代の人々も私を幸いと言うだろう」、自分の後にも世代が続いていくんだ、ということをマリアは覚えてうたっていました。私たちにとってもそうです。過去の世代がありました。アブラハム、ダビデからイエス様の時代、そしてそれから教会が誕生して、世界中に教会が誕生して今に至る時代、今私たちの時代があります。そして今から後、私たちの今生きている、今ここから先にも、さらに未来にも世代が続いていく。神様の約束された永遠の愛、真実の愛は未来にも届きます。ここから先、また神のみわざが地上で行われます。この地上のみわざ、そして新しい天と新しい地が来るときになされるみわざ、神のみわざは続きます。

神はお忘れになりません。神は覚えておられる。ご自分の永遠の愛、真実の愛を忘れずにご自分の民を顧みてくださいます。

V 再び起こる 神の訪れ

旧約聖書から続いてイスラエルの民の歴史がありました。そうして新約聖書で教会が誕生し、イエス様を信じる人たちが新しいイスラエルとなった、それが続いていきます。神様はご自分の民を心に留め、そして訪れてくださいます。神はこの地を訪れます。既に訪れましたし、未来にもう一度そのことが起こります。やがての日に、再び起こる神の訪れを今、2020年の祝会のない特別な待降節に、赤ちゃんの姿の御子を思いつつ待ち望みましょう。赤ちゃんとして生まれた神の御子を思いつつ、やがてくる神の訪れを待ちます。マリアがうたい信じて賛美したように、身をもって経験したように、そして世代世代の代々の聖徒たちが経験したように、私たちも神様の訪れとみわざの実現を信じて、首を長くして、からだを伸ばして待ち賛美します。やがて完成する神様のみわざは、今もこの時代に、ここにいる私たちを通して少しずつですけれども進んでいます。私たちもまた神のみわざの一部となっています。

神様はご自分のご計画を実行されるために、普通の人たちを用いようとされました。マリアもその一人でした。私たちも神様が用いようとされる普通の人たちの列に、マリアと一緒に連なっているのです。21世紀の日本に私たちは置かれ、この時代この国で、神の国と主イエス様の愛を拡げていくように、神様の永遠の愛を受けて生きている人間が、今の時代に、実際にいるんだということを世の人たちに見せるように、ここに置かれています。ですから私たちは主の愛を受けて、主からの愛で互いに愛し合い、主の真実の愛が見えるようにこの世で生きていきましょう。暗いこの世がますます暗くな

るとき、主の愛の光を受けて輝きましょう。照らされて、光を映して、誰かを照らさせていただけます。 「私たちの光を人々の前で輝かせ」 しましょう。 世代から世代に。

50 節でマリアは「代々にわたって」とうたいました。 世代から世代へとつながっています。 神は変わらず、神の真実は変わりません。 神の民も世代から世代へ受け継がれて続いています。 主の「あわれみ」は誰に及ぶとマリアはうたったのでしょうか。 主を恐れる者に及びます。 マリアはうたいました。 どの時代にもどの国にも主を恐れる人たちがいる、その人たちを神は目にとめておられるのです。

「私のたましいは主をあがめる」マリアは賛美しました。 たましいが賛美しているのです。 たましいが喜んでいます。 一方聖書の中に、たましいがそのような状態じゃないときのこと書かれていますし、うたわれています。 聖書の中にちゃんと両方あるわけですね。 一つの例は詩篇の 42 篇です。 「鹿が谷川の流れを慕いあえぐように 神よ 私のたましいは、 」とうたっているあの詩篇 42 篇です。 「私のたましいはあなたを慕いあえます。」とうたいました。 それだけでなく「わがたましいよ。 なぜおまえはうなだれているのか。 なぜ私の内で思い乱れているのか、 」と繰り返しこの詩人はうたいます。 私たちのたましいがうなだれるときがある。 思い乱れるときがある。 聖書の中にそれがあるのです。 また私のたましいが渴くときがある。

今皆さんのたましいは、皆さんの心と霊は、どのような状態でしょうか。 喜んで、賛美で湧き立っているかもしれません。 うなだれて悩んでいる、思い乱れているかもしれません。 “わがたましいよ” とこの詩人が呼びかけたように、私たちも “わがたましいよ” と呼びかけて、自分のたましいの声を聴きましょう。 自分のたましいの声は何と言っているのでしょうか。 わがたましいは喜んでいて。 わがたましいは渴いている。 両方のときがあるであろうと思います。 不完全な人間の歴史の中で、神様は完全なみわざをなさいます。 不真実な人間の中で、不真実な人間のために、不完全な人間を用いて、神様はみわざをなさいます。 神はいつも真実です。 一方私たちのたましいは揺れます。 ときにたましいが喜び賛美する。 ときにたましいはうなだれ思い乱れる。 両方のときがあります。

待降節です。 揺れるたましいで主を仰ぎましょう。 私たちのそばに共にいるために来てくださった主を仰ぎましょう。 主の変わらない真実を慕い仰ぎ、あるいは慕いあえぎ、賛美させていただきます。

お祈りをささげましょう。

天の父なる神様。 今までにない待降節を過ごしております。 今日は多くの人たちの顔を見て、大人も子どもも一緒に集まって、顔を合わせて一緒に食事をする時を楽しみにしていましたが、今年そのようなクリスマス祝会を行うことができません。 離れて

距離を置いて過ごしている私たちをあわれんでください。今ここにいる私たちをご覧ください。目にとめてください。私たちのたましいが喜び賛美する時も、私たちの心が渴きうなだれる時も、私たちを目にとめてください。あなたの変わることのないあわれみと真実の愛を信じます。あなたが、「誠実を尽くす」、「真実を尽くし続ける」、と約束して下さいますから信じます。どうか疲れている一人一人を休ませ、力を与え、癒しを与えてください。病の床にある方たちを、入院している方たちを、治療の中にある方たちを守り支えてください。それぞれの場であなたが共にいて下さいますように。主イエスキリストのみ名によってお祈りします。アーメン